

経済指標ウォッチャー

ユーロ圏GDP成長率（2020年7～9月期）は大幅改善

今後は感染第二波による経済活動の再制限の影響が懸念される

GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのかを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

2020年第3四半期GDP成長率は大幅改善

ユーロスタットが10月30日に発表した、2020年7～9月期の実質GDP（域内総生産）成長率（速報値）は、前期比+12.7%と4～6月期の同-11.8%から大幅に改善しました。事前予想（同+9.5%）も上回り、1995年の統計開始以来、最大の伸び率になりました（図表1）。

新型コロナウイルス感染拡大を抑制するために実施されていたロックダウン（都市封鎖）解除などによる経済活動正常化の動きがGDPの改善につながったものとみられます。3、4月に大きく落ち込んだユーロ圏小売売上高は足元では改善傾向にあります。個人消費の回復がユーロ圏GDPの改善を牽引したものとみられます。

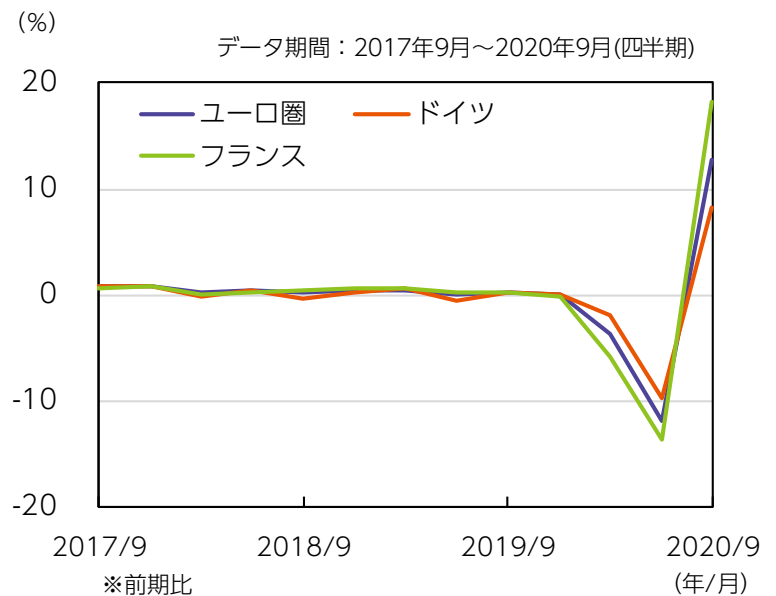
感染第二波による景気の下振れ懸念が高まる

10月13日に公表されたIMF（国際通貨基金）の見通しでは、ユーロ圏の2020年の実質GDP成長率は-8.3%と日本の-5.3%や米国の-4.3%と比べ、低調となることが予想されています。

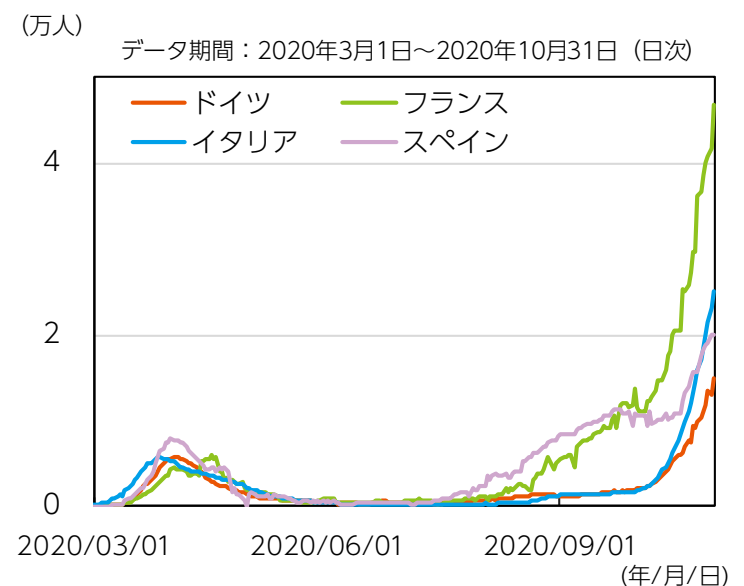
10月29日のECB（欧州中央銀行）理事会後の記者会見でラガルド総裁は「景気回復の勢いは想定以上の速さで失われている」と述べ、感染再拡大を背景にユーロ圏の景気が二番底へ向かうことへの警戒感を示しています。

ユーロ圏各国では足元の感染拡大（図表2）に歯止めをかけるため、ロックダウンを再度導入するなどの厳しい措置が実施されています。ロックダウンなどの規制が長引くようであればユーロ圏の実質GDP成長率の下振れ懸念が高まることが想定されます。

図表1：2020年第3四半期GDP成長率は大幅改善



図表2：ユーロ圏各国の新規感染者数は増加傾向



※ 欧州主要国の新型コロナウイルス新規感染者数（7日移動平均）の推移

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>